

シェアハウス

国際交流型に架ける夢

ボーダレスハウス代表取締役 李成一

▶下

若者を中心[new]に新しい住まい

ている。

そんな状況下において、彼

かである。

の形として定着しつつある

シェアハウス。18年に発覚し

た「かぼちゃの馬車問題」で

逆風のように見られがちな当

業界ではあるが、実際には市

場のニーズは高く、社会的必

要性も増す一方である。

当社シェアハウスのコンセ

プトである「外国人共生の国

際交流型」がその一つであ

る。政府主導による積極受け

入れ政策もあり、留学生や就

業者などの「外国人定住者」

が近年右肩上がりで増え続け

つたり、地域に暮らす外国

人と地域住民との生活の中で

会」のあり方が今問われてい

るといつていいだろう。

くいという面があ

る」という面がある。

ましてや外国人が

住んでいるとなると

不安感を抱く人も少

なくない。だからこそお互い

を知り合う「きっかけ」が必

要であり、顔と名前を知り合

う関係になることが何より大

きである。

近年当社が運営するシェアハウスでは、地域との関わりを交流コンテンツとしている物件が増えている。

1つ目は、地域住民をシエニアハウスは、近隣住民からは実際の入居者が見えに

アハウスに招く定期イベントを通じて地域の人たちと関わる機会とななる。こうした交流

日本での思い出づくりになることはもちろんだが、イベントを通じて地域の人たちと関わる機会となる。こうした交流も人気である。

ト。広いリビングを持つシェアハウスだからこそできる企画でもある。着付けや料理づくりなどの体験型イベントから、おかげ一品を持ち寄って夕食を共にするパーティなど様々である。

2つ目は、地域主体のイベントにシェアハウスの住人が積極的に参加すること。今までなくなってしまった町内

の地蔵盆や夏祭り、運動会など日本ならではの文化イベントは、外国人にはとても人気である。



近隣の住民や学生との交流として定期イベントを開催。この日は和菓子づくり

マンション・開発・経営



真の多文化共生社会を実現

地域と関わる

李成一

4月機械系商社(株)ミスミに入社。11年(株)ボーダレス・ジャパンに入社。17年同社シェアハウス部門を分社独立しボーダレスハウス(株)の代表に就任し今に至る。

り・せいいち=04年3月近畿大学卒業。同年

レス・ジャパンに入社。17年同社シェアハウス

部門を分社独立しボーダレスハウス(株)の代表に

就任し今に至る。

2つ目は、地域主体のイベ

ントにシェアハウスの住人が

積極的に参加すること。今で

は少なくなってしまった町内

の。それは、お互いの文化や

ミユニティを「これからも日

本全国で提供し続けていきた

い。

国際交流型シェアハウスと

してそのきっかけとなるコ

ミュニティを「これからも日

本全国で提供し続けていきた